開催地名	埼玉県 加須市
開催日時	令和7年2月3日(月)13:30~14:10
開催場所	パストラルかぞ 大ホール
語り部	高橋 進一(千葉県旭市)
参加者	自主防災組織・自治協力団体の中心人物、防災士 500人
開催経緯	防災リーダーに成り得る方の中で、意識・熱意に差があるほか、要配慮者支援者のマンパワー不 足といった課題があり、市全体的に防災に関する意識の向上を図りたい。
	■はいめに

防災士として活動する講師が、災害時に必要な準備や心構えについて語る機会となった。防災 に関する知識があっても、いざというときに適切な行動が取れなければ意味がない。講演で は、災害発生時の行動や防災意識の重要性について、具体的な事例を交えながら説明が行わ れた。

担当地区は千葉県旭市。旭市は過去に東日本大震災の際に津波被害を受けた地域でもある。 地域の防災意識を向上させることを目的とし、防災訓練や講演活動を積極的に行っている。特 に、地域住民が自分自身の命を守るための知識を身につけることが、被害を最小限に抑えるた めには不可欠である。

## ■ あの日のこと・その後のこと

今回の講演では、自身の被災経験を語るのではなく、主に防災士としての知識や経験に基づい た話が中心となった。特に「災害時にどのような行動を取るべきか」「避難のタイミングをどう 判断するか」「日常の備えがいかに重要か」について、多くの実例を交えて説明が行われた。

まず、講師が強調したのは、「知識があっても、すぐに行動しなければ意味がない」という点で ある。多くの人は災害が発生しても、「自分は大丈夫だろう」「この程度なら問題ない」と考えて しまう。しかし、こうした油断が命を落とす原因となることが多い。例えば、東日本大震災の際、 津波の到達が予想されていたにもかかわらず、避難しなかったために犠牲になった人が多数 いた。これは、「正常性バイアス」と呼ばれる心理的な現象で、「これまで大きな災害がなかった から、今回も大丈夫だろう」と思い込んでしまうことが原因とされている。

また、講師は「釜石の奇跡」という実例を紹介した。これは、東日本大震災の際に岩手県釜石市 の小学生たちが、大人の指示を待つことなく率先して高台へ避難し、3,000人もの命が救われ たという話である。この事例は、「とにかくすぐに動くことの重要性」を強く示している。避難す ることに迷ったり、ためらったりしているうちに、災害の危険は刻一刻と迫る。だからこそ、すぐ に動くことが最も重要であり、地域の防災意識を高めるうえでも「声掛け」と「迅速な行動」が不 可欠であることが強調された。

# ■ 防災意識を高めるために

講演では、防災士としての立場から、「災害を想定して行動することの大切さ」が繰り返し述べ られた。たとえば、家に備蓄をしていても、災害によって家自体が流された場合、その備蓄は意 味をなさなくなる。つまり、「備えは自分のためではなく、地域や他人のためでもある」という視 点を持つことが重要である。自分の安全を確保するだけでなく、避難所での生活や、周囲の 人々への支援を意識することが求められる。

また、防災意識を高めるためには、日常生活の中で「もし今、大地震が発生したら?」「もし今、 大雨による避難勧告が出たら?」と、具体的なシミュレーションを行うことが大切だと語られ た。「実際にそうなったらどう行動すべきか」を普段から考えておくことで、災害時に冷静に行 動できるようになる。

特に、「防災士の活動においても、報告・連絡・相談(ほうれんそう)が重要である」と述べられ た。災害時には、正確な情報を迅速に共有し、適切な判断を下すことが求められる。そのために は、日頃からの情報収集や訓練が欠かせない。

### ■ 旭市の防災活動と課題

旭市では、防災意識の向上を目的に、消防車の放水体験や防災訓練を実施している。しかし、こ うした取り組みに参加する住民は限られており、「なかなか人が集まらない」という課題があ る。防災訓練は「一部の意識の高い人だけが参加するもの」となりがちだが、本来は地域全体で取り組むべきものである。

そのため、講師は「防災訓練のあり方を見直し、誰もが参加しやすい形にすることが必要である」と述べた。たとえば、避難訓練の際に「キッチンカーを呼ぶ」「子供向けのゲームを用意する」など、イベントとしての要素を取り入れることで、参加者を増やす工夫が求められる。

# ■ まとめ

今回の講演を通じて、「災害時に何よりも重要なのは、迷わず行動すること」という点が繰り返し強調された。どれだけ知識を持っていても、実際に動かなければ意味がない。だからこそ、災害が発生したら「まずは逃げる」ことを最優先しなければならない。

また、防災意識を高めるためには、日常生活の中で「もしもの場合」を想定し、具体的な行動を考えておくことが重要である。地域全体で防災意識を共有し、いざという時に迅速に対応できる体制を整えることが求められる。

「防災は特別なものではなく、日常の延長線上にあるべきものである」という意識を持ち、一人ひとりができることから始めていくことが大切である。





開催地より

防災リーダーに成り得る方の中で、意識・熱意に差があるほか、要配慮者支援者のマンパワー不足といった課題があり、市全体的に防災に関する意識の向上を図りたい。